

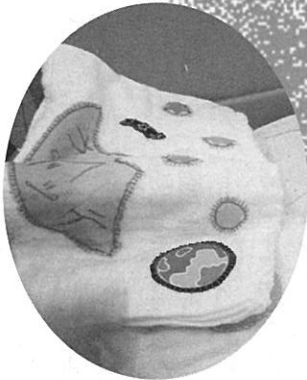


ボランティア かわらばん

編集
発行

ながのボランティアかわらばん編集委員会

ほっとけないきもち ぼくらも同じ



東日本大震災以来

「自分も何かしたい」

そんな思いが

長野市ボランティアセンターに

たぐやと届いています

目を見張るのは

学校からの相談の多さ

ほっとけないきもち

ほくほく同じ

わたしたちだって何かしたい

何かしなければこ

いま

それぞれが歩み始めています

(特集 2ページ)

ほっとけないきもち ぼくらも同じ

長野女子短期大学

3月11日以降、「被災地が復興していくために長野にいるわたしたちができることはないだろうか」という思いでいっぱいでした。被災地に手作り雑巾を送ろうと長野市ボランティアセンターが企画した「ながの福ゾウくんプロジェクト(※)」に有志で参加し、これならわたしたち学生にも学校での空き時間にできる、学内での活動に広めていこうとボランティアサークルが中心となり、プロジェクト“長野女短バージョン”を立ち上げました。

ポスターを掲示して毛糸やタオルを収集し、授業終了後、被服実習室で作る活動を始めました。

6月6日に第1回を開催。学年・専攻を超えて参加者が集まり、先生方も参加して、にぎやかに楽しくお喋りしながら、よい交流の時間が持てました。

学生生活は、実習などもあり忙しいですが、今後も継続して活動していこうと思います。

(生活福祉専攻
2年 丸山沙弥)



みんな一緒に雑巾づくり

豊野西小学校

PTA役員のCさんが4月初め、ボランティアセンターを訪れ、「PTAで義援金を集めているが、送りが決められない」と相談がありました。ボランティアから、せっかく集めたお金を漠然とどこかに送るのではなく、自分たちとかかわりのある所へ寄付するのが良いのでは? と提案しました。

何度もボランティアに足を運び、そのつど新しい情報を収集していたCさん。ボランティア企画の「福ゾウくんプロジェクト」を知り、「これなら、すぐにでもできる!」と考えました。さっそく学校でタオルと雑巾の寄

付を募集。

寄付された雑巾は被災地へ

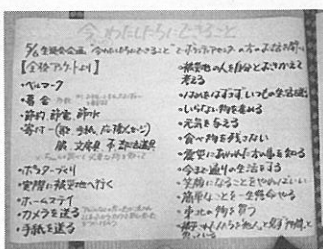
Cさんのクラス担任の先生は親子で雑巾を縫う時間を設けてくれました。5月24日、170枚を超える雑巾をプロジェクト



に寄付しました。また、義援金は気仙沼の小学校に送ることになったとのこと。寄付して終わりにならない、継続的な活動を期待します。

柳町中学校

生徒会担当の油井桐子先生から「生徒会として震災の被災地に何かできないか」とボランティアに相談があったのは3月末。その後、生徒会だけで考えるのではなく、学校全体で考えたいので、生徒総会で話してもらえないかと依頼がありました。



生徒自ら意見を出し合い...

ボランティアが訪問、フが訪問、ボランティアの基本的な考え、被災地の様子など

後日、3学年の学年集会で意見交換が行われ、実家が被災した先生と現地ボランティアに行った同校の先生から現地の様子を含めて話がありました。少し重い雰囲気になりましたが、「もっと現実と向き合えない」と「ボランティアが自己満足になるのでは?」などの意見が出されました。先生からは「自分たちが日常の生活を大切にすることも考えていこう」と提案がありました。

感じる、考える段階を経て、現地との交流が必要と、栄村の中学校との交流が始まりました。今後は東北地方の中学校とも交流、応援する予定です。

北部中学校

北部中2年4組では、岩手県の宮古第二中学校との交流を通して、復興までの道のりを応援していく活動を始めています。

5月1日、保護者数人が宮古第二中避難所を訪問した際、炊き出し配膳用のお盆が必要と判明、「小学校の給食で使うお盆が家にあるのでは?」と、さっそく2年4組の保護者が担任に相談、まずはクラスで集めることになりました。しかし、1クラスだけでは思うように集まらず、学年の先生にも相談し

近にお盆が集まりました。

さらに湯谷小学校からリサイクル用に保管してあった10枚の提供を受け、みなさんの「応援したい」気持ちは53枚のお盆に乗せて宮古市に運ばれました。



送られたお盆

(※)「ながの福ゾウくんプロジェクト」は小物作りで被災地を応援するプロジェクトです

長野市災害ボランティア委員会だより



仲間と上手く役割分担をした見事な連携プレーでの作業

長野市災害ボランティア委員会が毎週実施している、岩手県大槌町へのボランティア派遣。第7次隊は女性3人、男性5人、20代〜60代までの老若男女が参加しました。

まず初日は、川付近のがれきを撤去。大きな畳や板、缶や木くず、生活用品等、様々なものが散乱し、材木からは、釘が何本も飛び出ています。がれきの中からは、写真や個人名の入った書類も見つかり、それらはより丁寧に拾い出し、まとめてボランティアセンターに届けました。

次の日は他団体も一緒に、かなり大人数での活動となりました。反対岸から川の上までがれきを上げなければならず、自然とバケツリレーのような作業に。外国の方たちも一緒に

岩手県大槌町 第7次派遣隊 ボランティア活動レポート 5月26日〜5月29日



海は穏やかで、朝日がとてもきれいな自然の恐ろしさと素晴らしさを感じた

に作業を行い、大きな力になってくれました。国境を超えた支援、本当にありがたいことです。この日、大きなものをほとんど撤去でき、朝とは見違える光景に、自然と皆から笑顔がこぼれました。

今回の津波被害を目の当たりにすると、私たちがやってきた活動は、本当に小さなものであると感じてしまいます。しかし、一人一人の力が集まって、あの川付近の景色を変えられたことは確か。まだ復興までにどれだけの時間や労力が必要なのか見当が付きません。でも、私たちが色々な形で「小さな力」になっていくことが、復興の一助となるのだと願い、支援を続けていきたいと思えます。

これからボランティアを始めたい人へ

6月4日、「ボランティア登録事前説明会」をもんぜんぶら座で開催しました。委員会への登録希望者に限らず、これからボランティアをしたい方々に広く活動への理解を広め、人材を発掘・育成していくことが目的です。

説明会では、被災地での活動内容や注意事項、ボランティア活動の基本、後方支援の紹介等を説明。当日は、予想を上回る多くの方に出席いただき、熱気に満ちた内容となりました。

参加者からは「被災地へ行った人の話が聞けてよかった」「力仕事以外の支援が必要になったら参加したい」「被災者の方からお話を聞きたい」といった意見や感想も寄せられました。

この日は、約20人の方にボランティア登録をしていただき、関心の高さがうかがえました。



ジャンプで元気!!! プロジェクト

避難所で不自由な生活を余儀なくされている方に、人気漫画を読んで少しでも元気になってもらえれば……。そんな気持ちから発足した、このプロジェクトでは、震災後に発売された雑誌を集め、大槌町の避難所に配達しています。

被災地で好評のため、中学生に人気の「ワンピース」が連載されている少年ジャンプをはじめ、週刊少年雑誌を随時募集しています。

長野にいてもできることをしてみませんか?

●長野市災害ボランティア委員会

0800・2376・6176 (9時〜18時)



ボラセンだよ!



今年度の公開審査会は一はじめの「一步部門」7団体、「もっと豊かに部門」4団体が参加。助成額決定までですべて公開で実施しました。3分間のプレゼンは趣向をこらしたもののばかりで、思いや考えを分りやすく伝えるために、スライドを使ったり、寸劇や紙芝居、マジックの実演も登場。

審査員からは予想外の質問も噴出! 活動の持続性や将来性、発展性に大きな期待が寄せられました。さらに、この審査会の特徴は、中高生などの若者も特別審査員として参加すること。若者ならではの意見が、審査員の判定を動かす事もあるのです。

長野工業高等学校生の河野智哉さんは、福祉施設等で交流をする「いきいきふれあい隊」のプレゼンを見て「皆さん自身がつっても楽しそうで生き生きしているから、見ている方も自然と笑顔になると、活動者が楽しむことが大切だと伝えました。

公開審査会では、他の団体の活動を知ることや、審査員のアドバイス等すべてが活動のヒントになります。活動を応援する支援ネットワークやボランティアアセンターとつながることも、グループ活動をより充実したものへと変化させていきます。お金では得られない、たくさんの「おまけ」が皆さんにプレゼントされ、参加した皆さんの熱意に、活動への意気込みを感じた審査会でした。

助成金を受けたグループの皆さんの活動の様子は、毎月かわらばんでご紹介しします。8月号は「中条地区戦争体験を語り継ぐ会」です。お楽しみに!



箱膳で食文化をつたえる事業



特別審査員の若者たち



審査員が得点シールを貼っていく

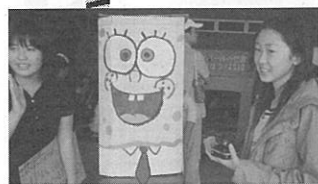
ダンボールの世界で遊ぼう!

去年の夏、私たちはクラスで、「ダンボールの世界で遊ぼう」という活動に、ボランティアとして参加しました。

それは、ダンボールを使って迷路などを作り、小さい子どもたちに「遊びを通してエコを感じてもらおう」ことが目的です。1回目の参加は「遊び」が中心で、ダンボールをしめらせて作ったプールなどで遊びました。2回目は「制作」を中心にし、名前を書いた首飾りなどを作りました。また2回目の時には、グループに分かれて、ダンボールでロボットを作りました。なるべくダンボールだけで、というのが難しかったけれど、みんな協力して作れてよかったです。

当日は2回とも、主催者側の予想を超えるほどのたくさんの人が来ていて、私たちもすごくやりがいを感じ、うれしかったです。ダンボールという身近な物で遊びながら、子どもたちがエコについて興味を持ってくれたと思うので、良かったと思いました。

(取材 信大付属長野中2年D組 清水肇、高野楓子、
瀧澤瑞季、田口大悟、塚原菜々美、藤田華子)



クラスみんなで作ったダンボール人形
に入って子どもたちと遊びました

5月31日、信大付属長野中学校2年D組の皆さんが、ボランティアセンターで職場体験。かわらばん編集委員として、記事を書いてくれました。

まちの縁側だより



まちの縁側 発掘あるある探検隊

床屋さんなのに床屋さんじゃない!? 村の縁側は雀のお宿



手板さん できる気軽さがあり、床屋さんさんに用がなくても、和田さんに会いに来る人もいるのです。まさに昔ながらの縁側を彷彿させます。

県道から一本中に入ると、車一台やつと通れる細道が家々の間を縫うように曲がりくねって、昔のたたずまいが残る松代町牧島地区。民家の庭先に「雀のお宿」と称する床屋さん「カットサロンワダ」があります。

和田さんは、「ここは、村の縁側ながら色んな話ができるでしょ。漬物の話とか、悩み事とかね。ここに来て、頭も心もスッキリして帰ってもらえたら嬉しいし、喜んでもらえる私も嬉しくなって、元気をお互いに貰い合ってるの。お互いさまよ」と、にこやかに。

そんな和田さんの人柄に惹かれて度々ここに来るといふご近所の奥さんは、「ここでは、お客さん同士話が出来ると、教え合ったり、助け合ったり、床屋さんに来たのにおしゃべりにきたみたいなの」と、楽しそうです。

困った人を見るとほっとけないという和田さん。相手の気持ちを考え寄り添うことを大切にされているからでしょう。色んな人が和田さんの周りに集まっています。

「雀のお宿」の由来は、いつも賑やかな声が聞こえて来るからでしょう。一歩お店の中に入ると、床屋さんとは思えないなごやかな雰囲気！ 待合用の椅子ではなく、お茶つこができるテーブルと椅子があり、そこには、和田さんお手製のお漬物や、お客さんが持つてくるお菓子が並んでいきます。窓辺や壁には、手作りの小物が飾られ、まるでお茶の間のようです。



お茶コーナーでお客さんと

そんな主のいる床屋さんには、「まちの縁側話」でもあり「縁が和」でもあるのです。

縁側@ニューフェイス

施設を縁側にしたい!
朝陽 デイセンターYUI



駐車場も広くて、入りやすい雰囲気のお店です。どうぞ気軽にお入り下さい!

でもらって、来てもらって、愛される。そんな施設を目指しています。オープン初日、近くの病院や銀行に来た人が次々とやってきます。「いらっしやいませ！」元気良く迎えてくれるスタッフや、利用者のみ

6月20日、長野電鉄朝陽駅北側にオープンした「デイセンターYUI」は、障がい者の生活支援の施設です。ここで仕事をしたり、余暇活動をしたり、地域で暮らすように過ごします。

なさん。店内には、木のテーブルと椅子、畳の部屋もあって、くつろげる雰囲気です。お店で売っている隠れたヒット商品「きらずあげ」や「やまんぼこさえた福の菓子」（ケーキやクッキーなど）を食べながらのんびりするのもしゃべりませんか。また、さをり織りの品物もたくさんあって、和風の趣の小物やワンピース、帽子など見ているだけで楽しくなります。

デイセンターYUIオープンを機に新製品もできました。「鼻たれ小僧の福のたれとつゆ」は果物のジャムとシロップです。「つゆはこれからの季節、カキ氷にかけてもいいし、炭酸で割ってもおいしいですよ」とスタッフの中田昭人さん。

中田さんは花の種苗交換会も企画中。火曜日と木曜日は徳間のワークセンターYUI自慢商品、二種類の具が楽しめる「お結び長者の福包み（かわらばん331号で紹介）」も販売します。

利用者さん手作りの風情たっぷりな看板が目印です。ふらっと寄ってみてくださいね!



看板の作者は僕です!

講座

障害者スポーツ講習会受講者募集

スポーツを通じて障害者の心身の健康の維持増進を図り、参加者の交流を目的とします。

- 日時：①水泳/7月10日(日) 13:30～
②スマイルボウリング/7月16日(土) 9:30～
③フロアホッケー/7月24日(日) 9:30～
④ポッチャ/8月7日(日) 9:30～

場所：①サンマリーンながの
②～④長野市障害者福祉センター

対象：市内在住の13歳以上の障害者
(水泳は7歳以上ただし小学生は保護者同伴)

定員：20人(先着順)

受講料：無料

問：長野市障害者スポーツ協会(大日方)

TEL/FAX：266-8834



「NPO活動のための資金調達セミナー」 生きたお金の使われ方

NPOなどの団体が活動を行う際の多様な資金調達の方法やその特徴を知り、自団体の活動に適した資金確保策を考えるセミナーです。

日時：平成23年7月16日(土) 13:30～16:00

会場：もんぜんぶら座 701会議室

講師：特定非営利活動法人NPO夢バンク
理事長 和田清成さん

定員：30人程度 ※7月15日(金)までにお申し込みください。

参加費：500円(資料代を含む)

問：長野市市民公益活動センター(愛称・ぶらっと)

TEL：026-223-0051/FAX：026-223-0052

e-mail：npo@nagano-shimin.net



ゆかた着付け 無料講習会

この夏は自分でゆかたを着て出かけられるようになりたいと思いませんか？簡単な帯結びを教えます。

日時：7月14日(木)・21日(木)・28日(木)

いずれも14:00～16:00

場所：長野市ふれあい福祉センター 4F和室

持ち物：ゆかた・半巾帯・こしひも2本・伊達締め1本・

コーリンベルト1本・帯板

(ゆかた・半巾帯・各小物のレンタルもあります)

問：雅(みやび)着付けボランティア(萩原)

TEL/FAX：237-6431



NPO初歩講座

きほんのき「NPOってなあに？」
～NPO参考本プレゼントの特典つき！～

「最近、いろいろなところでNPOって言葉を見聞きするけどいったいNPOって何？」と思っている人もいるはず。この際だから聞きたいことを、「これから」の人たちのために分かりやすく説明します。また長野市内NPOからゲストを迎えて、実際の活動現場を語っていただきます。

日時：7月23日(土) 13:30～16:00

場所：もんぜんぶら座 304会議室

ゲスト：NPO法人長野県水辺環境保全研究会

理事長 長田健さん

定員：10人 ※7月23日(金)までにお申し込みください。

参加費：300円(※資料代含む)

問：長野市市民公益活動センター(愛称・ぶらっと)

TEL：026-223-0051/FAX：026-223-0052

e-mail：npo@nagano-shimin.net



施設における音楽を使ったレクリエーション

「音楽をレクリエーション的に取り入れたい」「施設の活動に使える音楽活動は？」などと考えている施設の皆様に現場で役立つ音楽を学んでいただけます。

日時：7月15日(金) 18:30～21:30

場所：長野市ふれあい福祉センター 5Fホール

講師：NPO法人長野音楽療法研究会講師

定員：50人

参加費：800円(材料費として)

問：NPO法人長野音楽療法研究会(宮川)

TEL/FAX：026-263-7832

e-mail：mtnagano@viola.ocn.ne.jp



現場状況 6月分(5月16日～6月15日)

相談件数

ボランティアしたい	26件
ボランティア求む	18件
情報求む	58件
ボランティア活動支援	8件
ボランティア活動上の悩み	8件
よろず相談・悩みごと	3件
ボランティア保険・事故処理	6件
その他	25件
合計	152件



hodo_hodo

3月の震災後「ボランティアしたい！ なにかしたい！」人が急増しています。当ボラセンへも連日震災関連の相談が寄せられ、コーディネーターが対応に追われている毎日。被災地の人々のニーズを受け止め、ボランティアを受け入れて活動に送り出し、時にはケアし、他団体や行政との連絡調整に奔走しています。

有効なボランティア活動を展開するためにも、被災地もボランティアも含め全体を客観的にみるバランス感覚が必要だと痛感。決断力、判断力、調整力、人脈等々「平時にしていないことは有事にはできない」。日々の仕事を通じて、またはシミュレーションしながら自分なりに養っておくしかありません。コーディネーターは大変だ！！

コーディネーターの つぶやき

情報かわらばん

募集

第17回 麦っ子鬼無里宿泊体験 ボランティアさん募集

水芭蕉と伝説の里「鬼無里」へ通い続けて17回目を迎える鬼無里宿泊体験が今年も行われます。

一緒に行ってください高校生以上のボランティアさんを募集しています。ハンディを持った麦っ子さんとじっくり付き合ってみたい方、将来福祉関係に進まれる方、もっと心豊かに人生を送ろうと思っている方のご参加を歓迎しま〜す!!

日時：平成23年8月27日(土)~28日(日)

場所：長野市鬼無里ふるさとの館

参加費：学生ボランティア/3,000円

一般ボランティア/4,000円

(ボランティアには交通費が支給されます)

申込み：7月9日(土)~8月12日(金)

問：NPO法人 麦っ子広場

TEL/FAX：026-223-1718



メル友ボランティアさん募集

私は歌のグループの【嵐】が大好きです。それと、携帯電話でのメールをすることも好きです。なので、どなたか私と【嵐】の話でメール交換をしませんか?

私は、上島久美子(かみじまくみこ)といいます。目に障害がありよく見えません。障がい者施設で生活をしています。

【嵐】の話でお友達になりたいです。メールを交換しましょう!お願いします。

連絡先：ながのコロニー(和田)

TEL：026-293-8766

おしゃべりサロン あいまい会 ~笑いましょう 話しましょう~

異世代間交流を望み、誰でも参加いただける会です。友だち誘ってぜひお出かけください。

日時：毎月第3火曜日 13:30~15:30

場所：長野市ふれあい福祉センター

会費：100円

問：あいまい会(横川)

TEL：244-4043



ご寄付ありがとうございました!

ハガキ、切手、テレホンカード、ベルマーク等

5月21日~6月25日分

長野手話サークル 矢澤豊 伝田敬子 松下信彦

きもの紫の会 信州新町福祉センター 長野女子短期大学

信州大学付属中学校保健委員会 豊野西中学校PTA

長野市市民課・市役所受付 匿名(敬称略)

有効に活用させていただきます

Saya cafe

月に1回、貴女のひとときをSaya cafeですごしませんか?女性限定のcafeです!

日時：7月16日(土)・8月27日(土) 10:00~12:00

場所：長野市ふれあい福祉センター 1Fテーブル

参加費：100~300円

持ち物：マイカップ

問：Saya cafe(横山)

TEL：090-9359-8204



裏布寄附ください&着物ときボランティア募集

あったかねこに使用する裏布(はんでんに使用する木綿のもの)が足りません。ご寄付ください。

また、着物をといて、洗い、アイロンをしてくれる人を募集しています。

問：ながのあったかねこの会(吉池)

TEL：026-278-5159

イベント

おはなしの力で子どもはかわる!

講演会「本と子どもと人をむすぶ

~おはなし会を楽しく続けるために~」

子どもたちの“よい本”との出会いー

子どもたちにより本を届けましょう!

日時：7月10日(日) 講演/14:00~15:30

交流会/15:45~16:30

場所：長野市中央隣保館(ホクト文化ホール南側)

講師：広瀬恒子さん(親子読書地域文庫全国連絡会代表)

参加費：無料

問：ながの子どもと本をむすぶ市民の会

TEL/FAX：026-293-4651(清水)、026-296-3674(山川)

夏休み自然体験学習 in 信州新町 参加者募集

被災地に行かないまでも、自分たちのできる範囲で何か役に立ちたいと考えている学生や子どもたちも大勢いると思います。そこで、皆で野菜を収穫・販売し、その売上金を被災地復興の支援金として寄付しようと思います!

また、震災で長野に避難されている方々を緑豊かな信州新町にご招待し、交流できたらと考えています。一緒に野菜を収穫・販売してくれる子どもたちを募集します!!

日時：7月31日(日) 6:00~12:30

場所：信州新町道の駅・ふるば村自然農園

対象：小学生・中学生・高校生とその保護者

定員：50人

参加費：1,000円(同伴の方は必要なし)

問：NPO法人 プロ家庭教師のネットワーク

アイウィル(上垣)

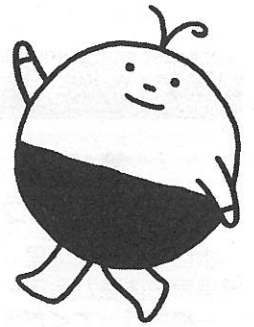
TEL：264-2070/FAX：264-2657

e-mail：iwill-info@yahoo.co.jp

URL：http://iwill.yu-yake.com



ボランティア かわらばん



ボランティア情報誌

発行所/〒380-0813 長野市緑町1714-5 長野市ボランティアセンター内
Tel: 026-227-3707 Fax: 026-224-1513
URL <http://vnetnagano.or.jp> E-mail: volucen@vnetnagano.or.jp

探検

2011年度 コーディネート力養成講座 実践編

発見

ほっとけ

まちの縁側実践講座

ひと・こと・もの まちの縁側発見!

助け合いの知恵やささまざまな工夫で、
地域の持っている良さを、縁側の視点から発掘します!



講師: 延藤安弘先生 (NPO法人 まちの縁側育み隊代表理事/愛知産業大学大学院教授)
1940年大阪生まれ。日本における住民参加のまちづくり研究・実践の第一人者。自らが撮影したスライド写真と名調子による「幻燈会」が各地で大好評。

◆ 信州新町 編

とき: 8月4日(木) 13:00~16:30
ところ: 信州新町福祉センター
持ち物: 飲み物・筆記用具・帽子
問: 長野市ボランティアセンター/TEL 227-3707



◆ 篠ノ井 編

とき: 8月5日(金) 10:00~15:00
ところ: 篠ノ井市民会館大会議室
参加費: 800円(受講料500円+昼食300円)
持ち物: 飲み物・筆記用具・帽子
問: 長野市ボランティアセンター/TEL 227-3707

対面 傾聴ボランティア養成講座

人の話に耳を傾ける... 気持ちに寄り添う
受け止める...

話をしたいと思っている方のお話を聴くボランティアを養成する講座です。
①②8月9日(火)・10日(水) 10:00~16:00
「傾聴とは? 相談援助の在り方を学ぶ」
末松渉氏 (日本橋学館大学非常勤講師・臨床心理士)
③④8月24日(水)・9月7日(水) 13:30~15:30
「ロールプレイで演習する」
竹中禎子氏 (長野市ボランティアセンター傾聴電話
運営委員)
⑤9月14日(水) 13:30~15:30
講義「ボランティア活動の基本を学ぶ」
ボランティアコーディネーター
シンポジウム「傾聴現場の先輩から体験談を聞き学ぶ」
会場: 長野市ふれあい福祉センター
定員: 20人 (先着順) *7月4日(月)~受付開始
参加費: 2,000円
問: 長野市ボランティアセンター/TEL 227-3707



傾聴電話

受け手ボランティア養成講座

人の話に耳を傾けること、気持ちに寄り添うこと、受け止めることを学び、話をしたいと思っている方のお話を電話で聴くボランティアを養成する講座です。本講座終了後は専門研修を経て、傾聴電話の受け手ボランティアとして活動していただきます。
①7月16日(土) 13:30~16:30
「今なぜ傾聴電話が必要なのか」
内山二郎氏 (長野市ボランティアセンター傾聴電話
運営委員長)
②8月6日(土) 13:30~16:30
「傾聴電話の基本的考え方と体験」
藤井純子氏 (長野市ボランティアセンター傾聴電話
運営委員/臨床心理士)
③8月20日(土) 13:30~16:30
「傾聴電話の演習」藤井純子氏
会場: 長野市ふれあい福祉センター
参加費: 1,500円 (全3回)
定員: 30人 *お申し込みは7月11日(月)まで
問: 長野市ボランティアセンター/TEL 227-3707

